

昭和30年7月の洪水時に名寄川で水位が上昇し、大きな被害をもたらした。

計画高水位は、経験した最高水位以下にとどめることが望ましいことや、地盤高を上回る高さが極力小さいことが望ましいことから、真勲別地点(KP8.4)では106.34mとしている。

昭和30年に計画した堤防の高さは、計画高水位 + 余裕高(1.5m)である。



昭和30年7月洪水 流出寸前の民家(中名寄)



昭和30年7月洪水 鉄道流出状況(中名寄)

名寄川縦断図

